

第四十三回 宗像歌会

平成二十八年七月十六日(土)

自由詠

題詠『蝉』

「七夕の日」に挙式した

息子夫婦

私にはできなかった

金婚式を迎えられるようにと

心の短冊に願う

大槻 幸子

蒸気機関車が

動きだすような

音がして

セミが鳴き出した

生命いのちの声をあげるのだ

岡本 まさ子

野の花は

野にあつてこそ華やぐ

テーブルの上では

寂しすぎる

ハルジオン

玉田 久美子

抜け殻残して

蝉三日

哀愁を帯びて

存分に鳴くがよい

夏の命は只々短い

玉田 久美子

ある日の整骨院

背中と首

肩と腰

結局全身

ほぐして下さい

松本 晴美

今朝、蝉が鳴いたと

カレンダーに

書き込む

暑い暑いと言いながら

どこかうれしくて

高原 美智子

昔の私を見るような

私の隣のお嬢さん

電車の中で食事中

まだまだ人生長くても

今の時間がないのでしょうか

杉本 明美

